

パリ五輪の自己ベストを超える跳躍を アジア大会で地元の人たちに見せたい。

2024年に開催されたパリ五輪「走高跳」で日本人88年ぶりの快挙となる5位入賞を果たした赤松諒一さん。今年9月の東京2025世界陸上でも8位に入賞し、2026年に名古屋で開催されるアジア競技大会への出場が内定しています。トップアスリートとして世界で活躍する一方、岐阜大学では転倒予防の研究にも打ち込む赤松さんに、競技にかける想いや今後の目標について詳しくお聞きました。



赤松 諒一 さん

教育学研究科修了
医学系研究科研究生

写真：森田直樹/アフロスポーツ

PROFILE

1995年5月2日生まれ。岐阜市出身。高校の陸上競技部で走高跳と出会い、3年時に2m16cmをクリアして岐阜県高校新記録を樹立。その後、岐阜大学へ進学し、日本学生陸上競技対校選手権大会で3度の優勝を収めた。以後も岐阜大学を拠点に競技を続け、2023年の世界陸上ブタベスト大会で8位入賞、2024年のパリ五輪では5位入賞を果たした。西武プリンスホテルズ所属のホテルエ、転倒予防の研究生という顔も併せ持ち、「三刀流」ジャンパーとして注目を集めている。



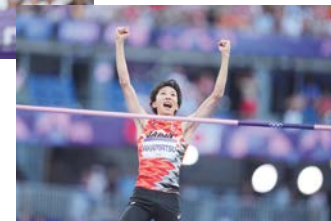
写真：AP/アフロ

今年9月に東京・国立競技場で開催された「東京2025世界陸上競技選手権大会」。赤松さんは男子走高跳決勝で2m24cmを跳び、日本人の最高成績となる8位入賞を果たした。



写真：三船貴光/フォート・キシモト

2024年のパリ五輪・決勝。赤松さんは、会心のジャンプで自己ベストより1cm高い2m31cmを見事クリア。大舞台でしっかり結果を出す精神力の強さを見せた。



写真：picture alliance/アフロ

練習拠点は慣れ親しんだ岐阜大学。赤松さんは助走の速度や踏み切りの力などを強化するため、さまざまなトレーニングを取り入れている。



専任コーチの教育学部
林陵平准教授と共に、
アジア競技大会でのメ
ダル獲得を目指す。

東京2025世界陸上では林先生の助言を受け、 今季ベストのパフォーマンスが出せました。

大学の後輩や恩師の前で
活躍できたのがうれしかった。

パリ五輪の決勝では2m31cmという自己ベストを1cm更新する記録を残すことができました。最高のパフォーマンスが出せたと感じています。大歓声の力を借りて過去一番の跳躍ができ、本当に思い出深い試合となりました。日本勢88年ぶりの5位入賞を果たし、その後は岐阜の方々から声を掛けられる機会が格段に増えました。

今年9月の世界陸上では、パリ五輪と同様に左足小指の疲労骨折が完治しておらず、不安を抱えながらの出場でした。それでも決勝に進出、8位入賞を果たし、「うまくできた」という手応えを感じた試合でした。特に決勝では、果敢に攻めながら今シーズンのベストが出せたと思います。岐阜大学の後輩や恩師も国立競技場まで足を運んでくださり、私の跳躍を生で見てもらえたのがうれしかったですね。

パリ五輪、世界陸上で入賞を果たせた大きな要因のひとつが、岐阜大学の准教授でもあり、コーチを務めてくださる林先生のご存在です。試合中も跳躍ごとにアドバイスをいただき、軌道修正しながら次の跳躍に臨みました。まさに二人三脚でつかんだ入賞だったと感じています。

中学時代まではバスケットボール部で、高校の陸上競技部で初めて走

高跳と出会いました。あの時に会えて良かったと今改めて思います。走高跳は一見単純そうに見えますが、一つ一つの動作に奥深い世界が広がっています。自分の感覚と実際の動きをすり合わせ、試行錯誤しながら正解を見つけていくプロセスが面白いと感じられる種目です。

陸上を始めてかなりの年月が経ち、年齢的にも今が競技人生のピークだと感じています。これからもしっかりと休息を取り、地道なトレーニングを積み重ねながら、自己ベスト更新を目指して頑張っていきたいです。

次の目標は来年のアジア大会、
ぜひ競技場で応援してほしい。

最近では「三刀流」として注目される機会も多くなりました。岐阜大学では、足の裏のバランスと転倒の関係を研究しています。特に高齢の方の転倒予防の研究に力を入れ、重心動揺計での測定データを解析した結果をまとめた論文を学術雑誌に投稿する予定です。また、現在所属する西武プリンスホテルズでは、フロント業務などを行っています。ホテルを訪れる方の3割ほどが外国人観光客のため、業務を通じて英語力を磨くことで、海外大会での審判とのやり取りなどに役立てています。

今後の目標は、まず来年名古屋で開催されるアジア競技大会で良い成

績を残すことです。大学時代によく使用した競技場で開催されるため思い入れも強いですし、岐阜の方にもたくさん応援に来ていただけたらうれしいです。そして、パリ五輪で記録した自己ベストを超える跳躍をお見せしたいと思います。

私はずっと岐阜大学でトレーニングを続けてきました。慣れ親しんだ場で練習できるのはありがたいですし、知人や後輩からの応援を受けて頑張れるのは大きなメリットです。これからも岐阜大学を拠点にしながら競技に打ち込んでいきたいです。

岐阜から世界へ——。学生時代からこの想いを胸に競技を続けてきました。大きな目標を持つことは、何かを成し遂げるうえでとても大切なこと。今まさに岐阜大学で学んでいる学生の皆さんにも、何か自分の目標を立て、その達成に向けて一歩ずつ進んでもらえたらと願っています。

Ibuki Special Movie

赤松選手への
インタビューを
動画で見よう！

